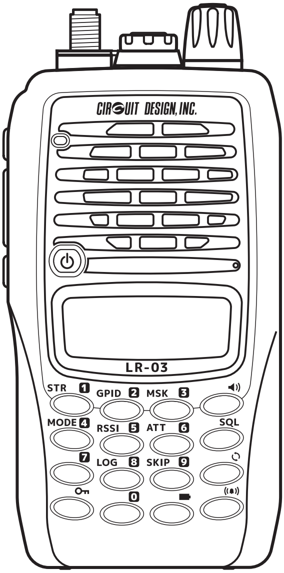
CIRCUIT DESIGN, INC.

アニマルトラッキングレシーバ
150MHz帯 動物発信器専用受信機

LR-03

取扱説明書



サーキットデザインの動物生態調査用受信機をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本機の性能を十分に発揮させるために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。
アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は大切に保管してください。
また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。
ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。

本機は国内専用モデル（アルインコ株式会社との共同開発品）です。
本機は動物生態調査用専用受信機ですので、それ以外の通信には使用できません。

This product is permitted for use only in Japan.

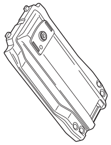
株式会社サーキットデザイン　　PS0775　20130115

付属品の確認

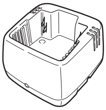
LR-03には、本体のほか次の付属品が同梱されています。
ご使用の前にご確認ください。

付属品

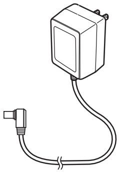
アンテナ
(SMA コネクタ)



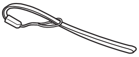
リチウムイオン
バッテリパック
(EBP-63)



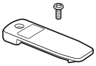
充電スタンド
(EDC-144)



充電 AC アダプタ
(EDC-150)



ハンド
ストラップ



ベルト
クリップ

絶縁シート

取扱説明書
(本書)

ファーストステップ
ガイド

標準付属品の仕様・保証内容については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

もくじ

付属品の確認 2
もくじ 3
1.安全上のご注意 5
1.1安全上のご注意 5
1.2お願いとおことわり 10
2.機能と特徴 11
3.付属品 12
3.1付属品の取り付け方法 12
3.1.1 アンテナ 12
3.1.2 ハンドストラップ 12
3.1.3 ベルトクリップ 13
3.1.4 絶縁シート 13
3.1.5 バッテリパック 13
3.2バッテリパックの充電 14
3.3バッテリパックのショート防止 16
3.4バッテリレベルアイコン 16
3.5乾電池ケース(別売) 17
4.各部の名称と操作 18
4.1本体の名称と操作 18
4.2ディスプレイの表示 20
5.基本操作 21
5.1電源を入れる 21
5.2受信周波数の変更 21
5.3発信器情報の受信確認 22
5.4スピーカー音量の調節 22
5.5スケルチの調整 23
5.6バッテリ残量の確認 24
6.便利な機能 25
6.1アッテネータ(ATT)機能 25
6.2ファンクション機能 26
6.3スキャン機能 27
6.3.1 チャンネルスキャン 27
6.3.2 チャンネルスキャンタイマ設定 27
6.3.3 スキャンモード設定 28
6.3.4 スキップチャンネル設定 28
6.4キーロック機能 29
6.5ランプ機能 29
6.6受信音切替機能 30
6.7電波強度表示機能 30
6.8メモリモード 32
6.8.1 受信した発信器情報を自動的にメモリチャンネルへ登録 32
6.8.2 発信器情報を手動で入力しメモリチャンネルへ登録 32
6.8.3 メモリチャンネルに登録した発信器情報の確認 33
6.8.4 メモリチャンネルの発信器情報の消去 34

6.9 マスク機能 34
6.9.1　マスクモードとマスクする発信器情報を選択 34
6.9.2　マスクモード変更またはメモリーチャンネル変更 34
6.9.3　複数の発信器がある場合のマスク方法 35
6.10アラーム発信音 36
6.10.1　アラーム発信音１ 36
6.10.2　アラーム発信音２ 36
7.リセット機能 37
7.1リセット機能 37
7.1.1　メモリーチャンネルデータリセット 37
7.1.2　オールリセット 37
8.保守・参考 38
8.1故障とお考えられる前に 38
8.2オプション一覧 39
8.2.1　MIC/SP(マイク/スピーカー)プラグ変換ケーブル(EDS-14(別売)）.....40
8.2.2　バッテリーパック 40
8.2.3　充電器の使用方法 40
8.3アフターサービスについて 42
9.定格 43

1. 安全上のご注意

1.1 安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表　示	表示の意味
危 険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
警 告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
	△ 記号は、注意(危険・警告含む)を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
	○ 記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
	● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合はACアダプタをコンセントから抜け）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因にて通信等の機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠警告

■ 使用環境・条件

自動車等の運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

保証書は国内でのご使用のみに適用されます。
Warranty is void when used outside of Japan.

万一、故障・誤動作等が原因で人命や財産等に損害があっても、製造元および販売元は、その責任を負うものではありません。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリ製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■ レシーバ本体の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

この受信機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。
火災、感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■ チャージャの取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

チャージャのACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手でチャージャのACアダプタに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チャージャのACアダプタを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプタの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

チャージャのACアダプタの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■ シガーライターケーブルの使用について

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと火災、感電、故障の原因となります。

■ 異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャージャをご使用の場合は、ACアダプタをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社窓口にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対にお止めください。

- ■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- ■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
- ■ 内部に水や異物が入ったとき
- ■ ACアダプタのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら、安全のため本体の電源をOFFにし、チャージャをご使用の場合は、ACアダプタをACコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■ 保守・点検

本体やチャージャのケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社にご依頼ください。

⚠注意

■ 使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒータの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■ 受信機本体の取扱いについて

アンテナを誤って目にささないようにしてください。

外部スピーカ/マイクロホン端子にはオプションのスピーカ/マイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、チャージャをご使用の場合はACアダプタをACコンセントから抜いてください。

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。
聴力障害の原因となることがあります。

■ チャージャの取扱いについて

チャージャのACアダプタを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
必ずACアダプタを持って抜いてください。

チャージャのACアダプタを熱器具に近づけないでください。
火災・感電・故障の原因となることがあります。

■ 保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池をとりはずし、チャージャをご使用の場合は、ACアダプタをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。

■ 外部電源使用時の注意

車のシガーソケットから電源を取る場合には、別売の12V車用シガープラグ（EDC-36）をご使用ください。

外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

24V系のバッテリ装着車に直接接続しないでください。故障の原因になります。

外部電源にスイッチング電源を使用した場合、スイッチングノイズの影響を受ける場合があります。

■ 防水機能について

本製品は、設計段階でJIS防浸保護等級7規格相当の試験に合格しており、防水キャップ類を正しく閉めていれば雨や雪の中でも防水カバーなしでお使いいただけます。ただし、常に激しい水しぶきがかかる環境や恒常的に、水没の危険がある環境での使用に耐える完全防水、海水がかかる環境での使用で発生する塩害については保証しておりません。
対応するオプション以外のものや、DCジャックをお使いになるときは防水性がなくなりますのでご注意ください。
また、すべての製品を出荷前に防水検査してその性能を保証するものではない「相当品」ですので、無用な水没や流水での洗浄などは絶対におやめください。ぬれたときは乾いた布で拭く、電池を抜いて内部もよく乾燥させるなどのメンテナンスを心がけていただくと、長く正常な状態でお使いになれます。なお、防水に使われているゴム素材などは、経年劣化のため変質し、防水性が失われる場合があります。弊社では、防水性についても部品と同じ1年を保証期間とさせていただきます。

1.2 お願いとおことわり

・本機は厳重な管理の下に生産および出荷されますが、万一ご不審な点やお気付きの点がありましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社へご連絡ください。
・この取扱説明書は予告なく変更することがあります。
・乱丁・落丁などございましたら、無償で交換いたします。

2. 機能と特徴

本機の機能・特徴は以下のとおりです。

■ 当社の150MHz帯動物用発信器の専用受信機です。
動物の位置探索に使用します。

■ 発信器情報(動物の種別、個体識別番号、周波数チャンネル)を液晶画面に表示します。

■ 発信器の信号をキャッチ、ビープ音のピッチで電波の強弱を伝える電界強度表示機能搭載。

■ 受信電波が強いとき動物の位置探索に威力を発揮する２種類のアッテネータ(減衰器)機能搭載。

■ 目的の動物の発信器情報を表示するマスク機能搭載。
同一周波数で複数の発信器を運用する場合に威力を発揮。

■ 動物の発信器情報を最大100ch登録可能。

■ 簡単操作で動物の発信器情報を自動的にメモリする機能搭載。

■ 探索する動物の発信器情報のチャンネルスキャン機能搭載。

■ バックライト照明付きで、表示も見やすい大型液晶パネル搭載。

■ オートパワーオフなどの機能も搭載。

■ JIS保護等級7相当の防滴ボディと、ねじ込み式MIC/SP端子。

■ 幅58mm×高さ110mm×薄さ34.1mm(突起物除く)、アンテナ・EBP-63リチウムイオンバッテリまで含んで約270gの、手になじんで使いやすいサイズ。

3. 付属品

3.1 付属品の取り付け方法

3.1.1　アンテナ

3

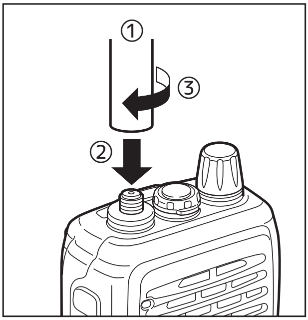
■ アンテナの取り付け方

①アンテナの根元を持ちます。

②アンテナ底面の溝と本体のアンテナコネクタの凸凹部を合わせて差し込みます。

③アンテナを時計方向(右)に回します。

④回転が止まったら、アンテナを確実に取り付けたことを確認します。



■ アンテナの取り外し方

アンテナを反時計方向(左)に回します。

■ 市販の外部アンテナ(八木アンテナ等)を取り付ける場合

本機側コネクタ(SMA)に対応する同軸ケーブルを使用して、本機と確実に接続を行ってください。

3.1.2　ハンドストラップ

取り付け方には、以下のとおり２つの方法があります。

・図１のように、ベルトクリップとハンドストラップを共締めする

・図２のように、本機上部後方のストラップ用の穴(★)に、ハンドストラップを通して固定する

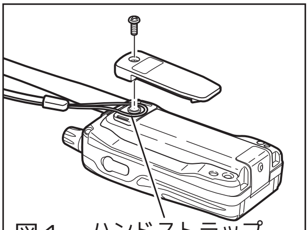


図１

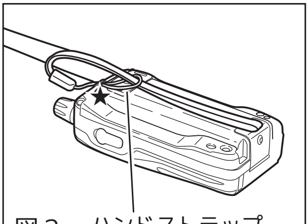
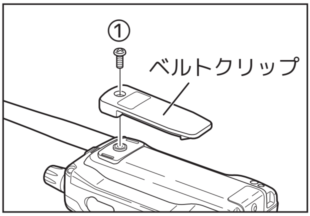


図２

3

3.1.3　ベルトクリップ

■ ベルトクリップの取り付け方



①ベルトクリップを本体の背面部の溝に合わせて取り付け、ネジを時計方向(右)に回して固定します。

②ベルトクリップを確実に取り付けたことを確認します。

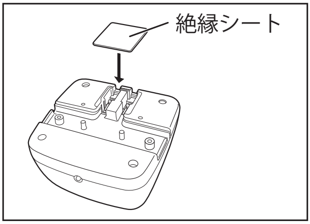
> 参 考:
> 使っているうちにネジが緩んでくることがあります。ときどき点検してください。

■ ベルトクリップの取り外し方

ネジを反時計方向(左)に回してベルトクリップを取り外します。

3.1.4　絶縁シート

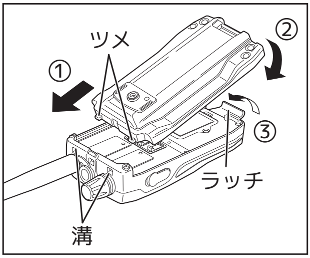
■ 絶縁シートの貼り付け方



ショート防止のため、充電スタンドの底（端子部）を右図のように付属の絶縁シートで確実に覆ってください。

3.1.5　バッテリパック

■ バッテリパックの取り付け方

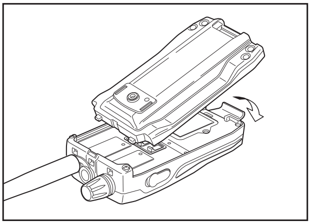


①バッテリパックのツメを本体の溝に合わせます。

②バッテリパックを矢印の方向に押し込みます。

③「カチッ」と音がするまでラッチを閉じます。

■ バッテリパックの取り外し方



バッテリパックからラッチを矢印の方向に外し、バッテリパックを取り外します。

3.2 バッテリパックの充電

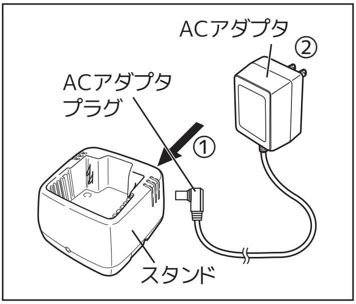
ここでは標準付属品のリチウムイオンバッテリパック(EBP-63)の充電方法を説明します。
付属の充電スタンド(EDC-144)を使用して、放電状態から約2時間で充電できます。
本体のDCジャックからの充電はできません。
その他のバッテリパックの充電方法については40ページをご参照ください。

3

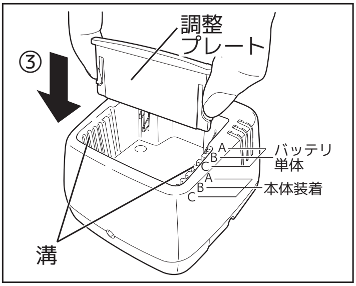
> **注 意：EDC-144を初めてご使用になる前にお読みください。**
> ショート防止のために、付属の絶縁シートでスタンド底面のネジ取り付け口を覆ってください。

①ACアダプタプラグを、スタンド背面のDC-INジャックに接続します。

②ACアダプタをコンセントに接続します。

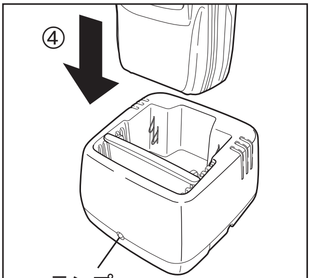


③調整プレートの両端を指で押さえたまま、バッテリパックの大きさに合うスタンドの溝に調整プレートを取り付けます(左右の文字(A、B、C)が一致するように調整プレートを取り付けます)。プレートはスタンドの底までしっかりと押しこみます。



> **参 考:**
> EBP-63を本機に取り付けて充電する場合は前方両側のAの位置に、EBP-63のみを差し込んで充電する場合は後方両側のAの位置に調整プレート合わせて取り付けてください。

④図のようにスタンドにバッテリパックを取り付けます。充電中は本体電源を切ります。
(図は、バッテリパックを本体に取り付けたまま充電する場合のものです。本体から取り外してバッテリパックのみをスタンドに入れることもできます。)
スタンドのランプが赤色に点灯し、充電が始まります。充電が終了するとスタンドのランプは消灯します。



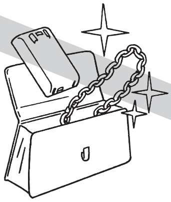
参 考:
本体にバッテリパックを装着した状態でうまく充電できない場合は、バッテリパック単体で充電して異常がないかご確認ください。

⚠ 注 意

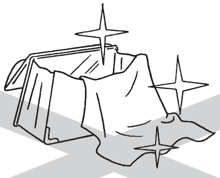
・バッテリパックは出荷時には満充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリパックの改造、分解、火中・水中への投入は危険ですからしないでください。
・バッテリパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、バッテリの発熱による火傷の原因となることがあります。
・必要以上の長時間の充電(過充電)はバッテリの性能を低下させますので避けてください。
・バッテリパックの保存は、－10℃～45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
・バッテリパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
・バッテリパックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないでバッテリパック回収協力店へご持参ください。
・リチウムイオンバッテリパックは、本体にDCジャックを使用して充電することはできません。
・バッテリパックは弊社製品専用です。対応の純正充電器のみで充電できます。市販や他社製品の充電器やアダプタなどから充電すると、故障や事故の原因となることがあります。
・本体・バッテリパックまたは充電器の電極の汚れを、ときどき乾いた綿棒などで取り除いてください。
・バッテリパックをしばらく使用しないときは、バッテリの劣化を防ぐため3ヵ月に一度充電してください。

3.3 バッテリパックのショート防止

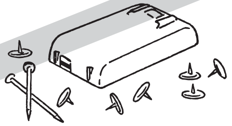
バッテリパックを持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発火の原因となることがあります。



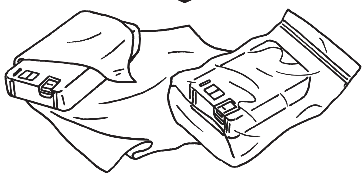
金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。



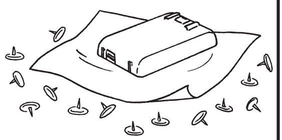
カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。



金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。



釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置いたりしないでください。



電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

3.4 バッテリレベルアイコン

本機の使用中ディスプレイに表示される黒色のバッテリアイコンは、バッテリの残量が十分にあることを示します。バッテリアイコンの中身が空になっているときは、バッテリパックを充電するか、新しいバッテリパックと交換してください。

バッテリレベルアイコン

- (黒色アイコン) バッテリの残量が十分にある。
- (空のアイコン) バッテリの残量が少ない。バッテリパックを交換、または充電してください。

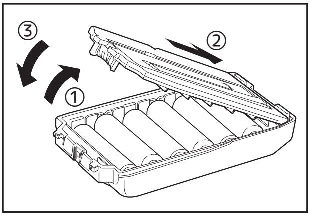
参 考:

より詳細なバッテリ残量を確認したい場合は、「5.6バッテリ残量の確認」(☞24ページ)をご参照ください。

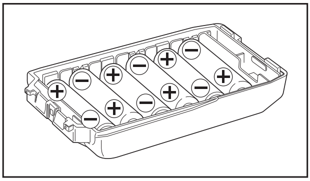
3.5 乾電池ケース(別売)

単三電池用のケースとして、EDH-34(別売)を使用できます。

①ツメを持ち上げ(図中①)、カバーを取り外します。



②単三電池6本をケースにセットし、図中の②→③の順にカバーを閉じます。
確実に閉じていることを確認します。
乾電池は性能上優れているアルカリ等の高性能タイプをお使いください。



⚠ 注 意：乾電池ケース(別売)について

- 乾電池を使用するときは、バッテリタイプの設定を必ずBAT-ALに変更してください。(☞ 24ページ)
- 乾電池を交換するときは、すべての乾電池を新しいものに換えてください。
- この乾電池ケースは防水ではありません。
- ＋/－の向きが違わないように注意してください。漏電・発火・爆発の原因となることがあります。
- セットする乾電池は、タイプ・メーカが同じで、新しいものを使用してください。
- 充電式電池の使用は禁止されています。充電式電池の使用の結果生じた、身体・財産へのいかなる傷害・損害についてもメーカは一切の責任を負いません。
- 時折、乾電池と接する電極の汚れなどを清潔な乾いた布で取り除いてください。
- 間違ったタイプの電池と交換すると、爆発の原因となることがあります。

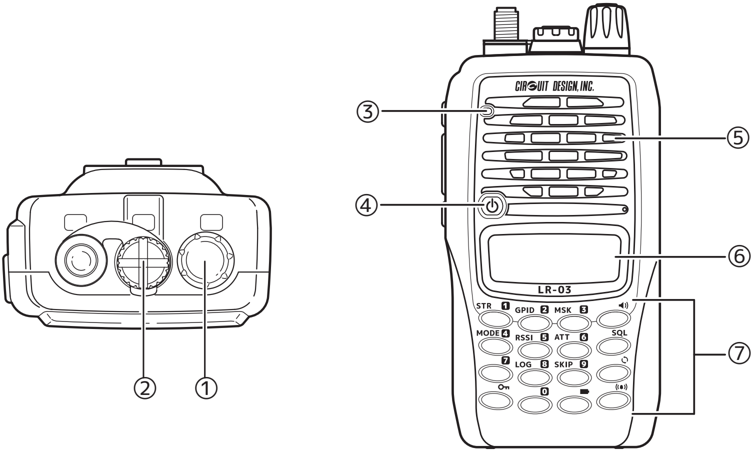
⚠ 注 意：充電機能について

乾電池ケース（別売）を付けたまま付属のアダプタや外部電源を本機のDC電源ジャックに接続すると、電流が乾電池に流れ、液漏れや発熱、破裂のおそれがあります。

4. 各部の名称と操作

4.1 本体の名称と操作

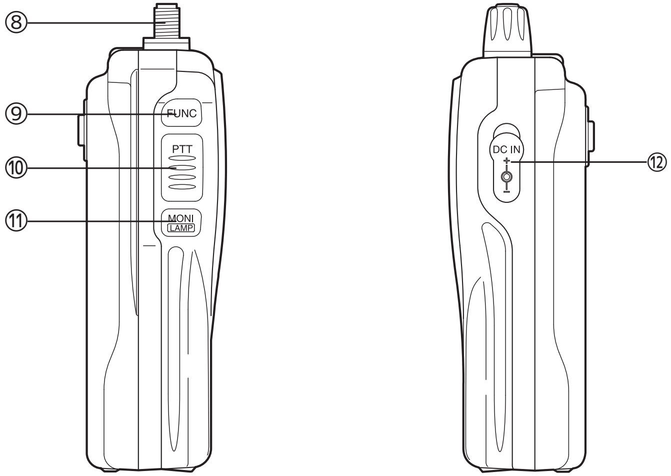
■ 上面部、前面部



①	ダイヤル	ダイヤルを回して受信周波数(チャンネル)、メモリチャンネル、セットモード内容などを選択します。 FUNCキーを押した後、ダイヤルを回すとメモリチャンネルを確認できます。
②	外部MIC / SP端子	外部スピーカを接続します。使用しない場合は、防水のためカバーをしっかりと閉めておきます。
③	ランプ	スケルチ (☞23ページ) が開くと緑色に点灯します。
④	電源スイッチ	電源スイッチを約1秒間押すと電源のON/OFFができます。
⑤	スピーカ	スピーカが内蔵されています。
⑥	ディスプレイ (LCD)	本マニュアルの「4.2 ディスプレイの表示」をご参照ください。 (☞20ページ)
⑦	キーパッド	本マニュアルの「5.基本操作」からご参照ください。(☞21ページ)

4

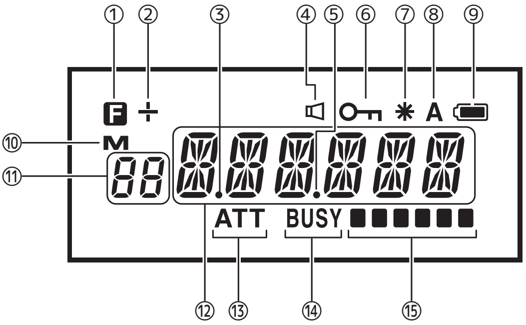
■ 側面部



アンテナ側　　　　ダイヤル側

⑧	SMAアンテナコネクタ	付属のアンテナをしっかりとねじ込みます。市販および別売のアンテナを使う場合は、動作周波数範囲内に調整されたアンテナと本機のアンテナコネクタ(SMA)に対応する同軸ケーブルにて、確実に接続してください。
⑨	FUNCキー	FUNCキーと他のキーを組み合わせることで様々な機能を使用できます。FUNCキーを約2秒間押すとセットモードに入り様々な設定をおこなうことができます。
⑩	PTTキー	発信器情報の登録の際に、決定キーとして使用します。 また、手動でメモリーチャンネルの登録に使用します。
⑪	MONIキー	MONIキーを押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。FUNC点灯中にMONIキーを押すとランプ照明が約5秒間点灯します。
⑫	DC電源ジャック	外部電源接続端子です。フィルタ付き12V車用シガープラグEDC-36(別売)を接続し車中で使用できます。

4.2 ディスプレイの表示

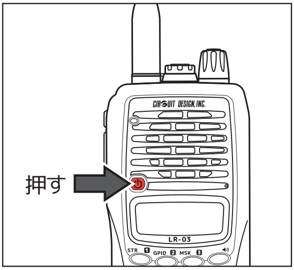


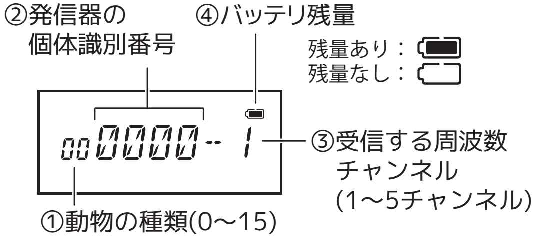
①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	÷	メモリーチャンネル自動登録時と電波強度表示モード時に点灯／点滅します。
③	●	スキップチャンネル設定時に点灯します。
④	(スピーカーマーク)	マスクモード時に点灯します。
⑤	●	チャンネルスキャン中に点灯します。
⑥	(鍵マーク)	キーロック設定時に点灯します。
⑦	✱	動物用発信器のバッテリ容量が低下すると点灯します。 (動物用発信器LT-01のみ対応)
⑧	A	本機のオートパワーオフ機能の設定作動時に点灯します。
⑨	(電池マーク) / (電池マーク)	バッテリー残量の状態を表示します。
⑩	M	メモリーチャンネル自動登録時に受信登録すると点滅します。 メモリーチャンネル参照時に点灯します。
⑪	88	通常動作の時に動物の種別を表示します。 00：クマ、01：サル、02：イノシシ、03：魚類、04：小型動物 05：鳥類 メモリーチャンネル参照時にメモリーNo.を表示します。
⑫	8.8.8.8.8.8	受信周波数(チャンネル)や各種設定内容等を表示します。
⑬	ATT	アッテネータ設定時に点灯します。
⑭	BUSY	スケルチが開くと点灯します。
⑮	■■■■■■	受信レベルを表示します。(レベルインジケータ)

5. 基本操作

5.1 電源を入れる

(⏻)キーを長く(約1秒間)押すと電源が入ります。
電源を切るときも同じ操作をします。
電源が入ると、液晶は下図の表示になります。

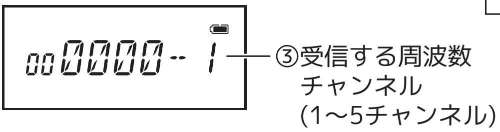




5.2 受信周波数の変更

受信できる周波数は、5チャンネルあります。
本体上部のダイヤルを回すと、回す方向に応じて周波数チャンネルが1chずつ増加または減少します。

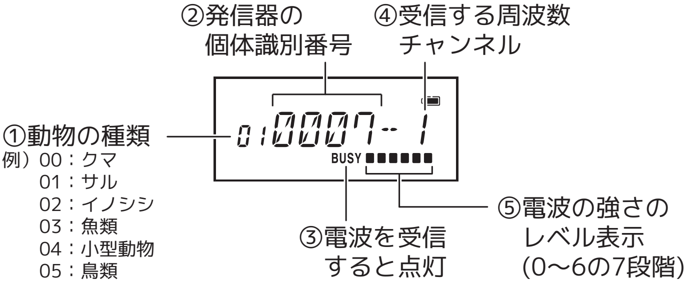
(・・・⇔5⇔1⇔2⇔3⇔4⇔5⇔1⇔・・・)



1ch：142.94MHz　2ch：142.95MHz
3ch：142.96MHz　4ch：142.97MHz
5ch：142.98MHz

5.3 発信器情報の受信確認

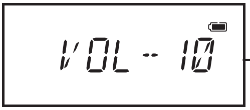
発信器のマグネットを外し、電波を発信させ、本機の液晶画面で電波の受信を確認します。受信した時、ディスプレイに動物の種類と個体識別番号と受信レベル(インジケータ)が表示され、受信音声が聞こえます。
またこの時、緑色のRXランプが点灯します。

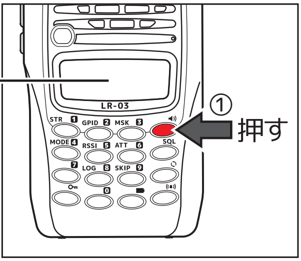


5.4 スピーカ音量の調節

音量調節範囲は00～30までの31段階です。初期状態は15です。00の場合、音声は聞こえません。

表示画面





① キーを押します。音量レベルが表示されます。

②ダイヤルを回して音量レベルを増加または減少させます。

③MONIキー以外のキーを押し設定を終了します。無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を終了します。

> **注 意**
> イヤホンを使用するときは、音量にご注意ください。小さい音量レベルで実際に音量を確かめながら、大きくしてください。

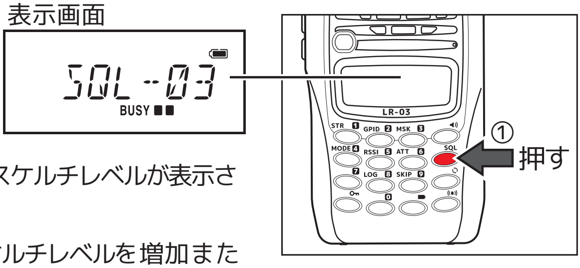
> **参 考:音がでないときは**
> スケルチが閉じているときは、音量を大きくしても受信音は聞こえません。
> 詳細は「5.5 スケルチの調整」(☞次ページ項目)をご参照ください。

5.5 スケルチの調整

スケルチとは、一定レベル以上の信号を受信したときだけ、スピーカーから音声を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを聞こえなくするもので、信号の待ち受けがしやすくなります。
スケルチのレベルを上げると強い信号は受信できますが、弱い信号は受信できなくなります。
信号を受信して音を出すことを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。どの程度の強さの信号を受信したときにスケルチが開くかは、スケルチの設定レベルで決まります。スケルチの設定レベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するため、調整できるようになっています。

スケルチレベルは00～10までの11段階です。初期状態は03です。

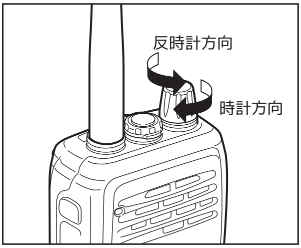
表示画面



① SQL キーを押します。スケルチレベルが表示されます。

②ダイヤルを回してスケルチレベルを増加または減少させます。

③MONIキー以外のキーを押し設定を終了します。無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を終了します。



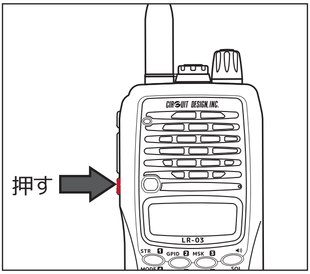
参 考:

・スケルチを常に開いた状態にしたいときは、スケルチレベルを0にします。
・スケルチが開いた状態ではスキャンが働きません。チャンネルスキャンを動作させるときは、ノイズ音が聞こえなくなるまでスケルチレベルを調整してください。

●モニター機能

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きづらい時に、スケルチを一時的にOFFにする機能です。ボリューム音量調整の目安としても使えます。

> 参 考:
> MONIキーを押している間だけ、スケルチレベルの設定状態に関係なくスケルチ動作が解除され、スピーカーから音が聞こえます。



5

5.6 バッテリー残量の確認

バッテリーレベルアイコンよりも詳細なバッテリー残量の目安を知ることができます。

① キーを2秒以上押します。「BAT-LI」とメーターが表示されます。

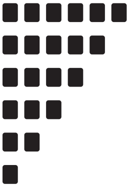
②バッテリータイプが異なる場合はダイヤルを回し、リチウムイオンバッテリーパック「BAT-LI」、アルカリ乾電池「BAT-AL」の2種類から、使用中のタイプを選択します。正しい設定でないと、表示は不正確になります。

> ※注意：LR-03では、「BAT-N+」「BAT-NI」を選択しないでください。
> ニッケル水素バッテリーパック(EBP-65/66：アルインコ社製別売)をLR-03で使用しないでください。

BAT-LI（リチウムイオン）→ BAT-AL（アルカリ乾電池）→ BAT-N+（ニッケル水素）→ BAT-NI（ニッケル水素）→ BAT-LI

③バッテリ残量を、レベルインジケータで表示します。インジケータの数が少ないほど、バッテリー残量が少なくなっていることを表します。

残量(多い)



残量(少ない)

④MONIキー以外のキーを押し通常表示に戻ります。
無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を終了します。

6. 便利な機能

6.1 アッテネータ(ATT)機能

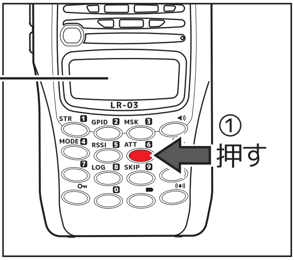
近くに強力な信号があり、目的の信号が「カブリ」を受けるなどして聞きにくい場合にこの機能を使います。この機能を動作させると、トランシーバの受信感度が下がりますので、通常はオフにしておきます。

> 動物探索のワンポイント：
> 発信器に接近すると、受信した電波の強さレベルが探索者の周囲でどの方向も同じ、もしくはレベル差がほとんどない状態になります。その場合、電波の到来方向が特定できにくいため、アッテネータ機能をお使いください。
> また、必要に応じて市販のアッテネータ(減衰器)をご使用ください。

6

① ATT 6 キーを押します。

表示画面



②ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

ATT-OF ‣ ATT-1 ‣ ATT-2 (→ ATT-OF)

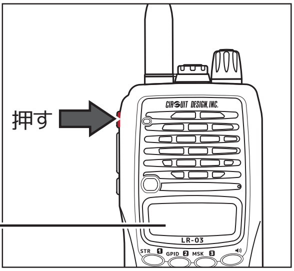
・ATT-OF：初期設定
・ATT-1：受信信号の強度を20dB下げます。
・ATT-2：受信信号の強度を40dB下げます。

③MONIキーおよびFUNCキー以外のキーを押すと設定が終了し、ディスプレイに **ATT** が表示されます。
・ATT機能を解除するには、ATT設定の手順の中で「ATT-OF」を選択します。
ATT 表示がディスプイから消えます。

③表示画面

6.2 ファンクション機能

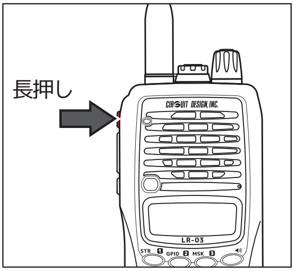
本機横のFUNCキーを押した後に、キーパッドのキーを押すことにより、別の機能をご使用することが出来ます。
（表示画面に F が表示されます。）



本機横のFUNCキーを長押しすることにより、セットモードの設定が出来ます。

①FUNCキーを長押しし、設定画面に切り替わったら、FUNCキーから指を離します。

②設定画面表示中に、FUNCキーを１回押すごとに以下の01～06の設定画面に切り替わります。MONIボタンを押すと、１つ前の設定画面に切り替わります。
ダイヤルを回すと、設定内容の変更ができます。



01 TIMER1 ： チャンネルスキャン間隔の時間を設定できます。(初期設定：TIMER1)
↕ （☞ 27ページ「6.3.2 チャンネルスキャンタイマー設定」参照）
02 BEP-ON ： キー操作音の有り無しを設定できます。(初期設定：ON)
↕
03 APO-OF ： オートパワーオフ(自動的に電源を切る)機能の有効/無効を設定できます。(初期設定：OFF)　表示画面に、**A** が点灯します。
↕
04 BON 1 ： アラーム発信音の発信時間間隔(1～5秒で1秒間隔)を設定できます。(初期設定：1秒)
↕
05 BOF- 5 ： アラーム発信音の休止時間間隔(5～80秒で5秒間隔)を設定できます。(初期設定：5秒)
↕
06 BVOL 15 ： アラーム発信音の音量(0～30)を設定できます。(初期設定：15)

③FUNCキーとMONIキー以外のキーを押すと設定が終了します。

6.3 スキャン機能

自動的に受信周波数を切り替えて、受信信号を探し出す機能です。

6.3.1 チャンネルスキャン

① ◯ キーを押すとスキャンを開始します。

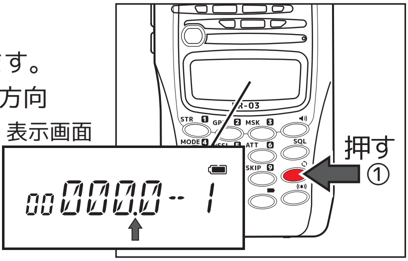
・ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向
(1▸2▸3▸4▸5)にスキャンし、
反時計方向に回すとダウン方向
(1◂2◂3◂4◂5)にスキャンします。

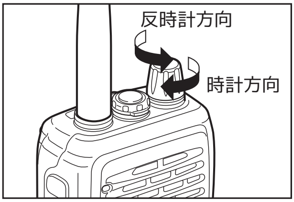
・再度スキャンするときのスキャン方向は、最後に操作した方向になります。

・スキャン中は右図ポイント(●)が点滅します。

②スキャンを止めるにはMONIキー以外のキーを押します。

表示画面





6.3.2 チャンネルスキャンタイマー設定

スキャンの種類はTIMER1と2、BUSYがあります。

・TIMER1：スキャン停止後、受信信号があっても2.5秒経過すると次のチャンネルに移ります。(初期設定)

・TIMER2：スキャン停止後、受信信号があっても5秒経過すると次のチャンネルに移ります。

・BUSY：スキャン停止後、受信信号が無くなれば次のチャンネルに移ります。

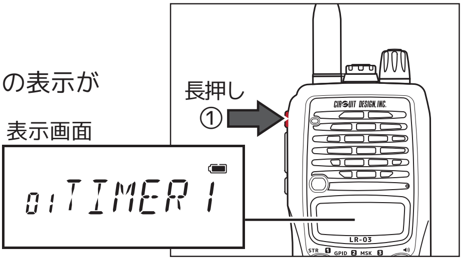
①FUNCキーを2秒以上長押します。

②ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

TIMER1 ▸ TIMER2 ▸ BUSY

・TIMER1：2.5秒間隔
・TIMER2：５秒間隔
・BUSY：通常

表示画面



③MONIキーおよびFUNCキー以外のキーを押すと設定が終了します。

6.3.3 スキャンモード設定

受信信号があり、スキャン停止後のスキャン方法を選択することが出来ます。

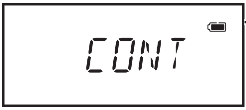
①本機横のFUNCキーを押す。
（表示画面に F が表示されます。）

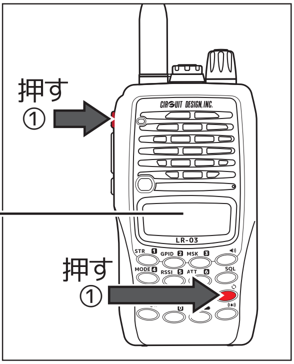
② キーを押す。

③ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が
下記のように切り替わります。

CONT → STOP

表示画面





・CONT：受信信号があるとスキャンを停止し、受信信号が無くなれば引き続き次のチャンネルに移ります。(初期設定)

・STOP：受信信号があった場合、ただちにスキャンを停止します。

④MONIキー以外のキーを押すと設定が終了します。

6.3.4 スキップチャンネル設定

スキップするスキャンチャンネルを設定することが出来ます。

①ダイヤルでスキップする周波数チャンネルを選択します。

例 (･･･⇔５⇔１⇔２⇔３⇔４⇔５⇔1⇔･･･)
↓3chをスキップ
(･･･⇔５⇔１⇔２⇔４⇔５⇔1⇔･･･)

②本機横のFUNCキーを押します。
（表示画面に F が表示されます。）

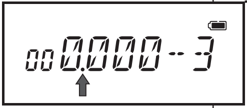
③ SKIP 9 キーを押します。

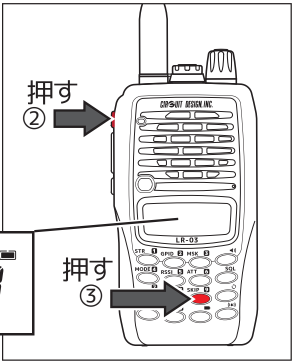
・スキップチャンネル設定を解除する場合は、上記①～③を操作してください。

・マニュアルでスキップ中は下図ポイント(●)が点灯します。

・複数のチャンネルをスキップさせる場合は、①～③の方法を繰り返してください。

表示画面





6.4 キーロック機能

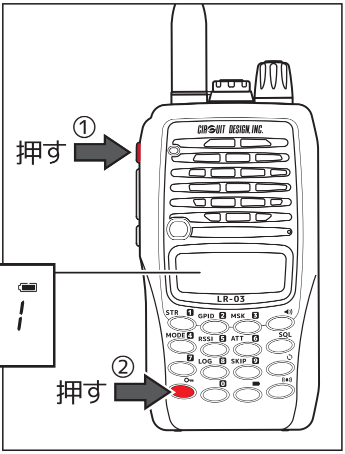
キーロックをすると誤操作を防ぐことが出来ます。

①本機横のFUNCキーを押す。
（表示画面に F が表示されます。）

② キーを押す。

・キーロック時は、ディスプレイに が点灯します。

・キーロックでは、FUNC、LAMP、MONI、VOL、SQL、電源ON/OFFの操作が可能です。



③キーロックを解除するときは、上記①②の操作を再度行います。

6.5 ランプ機能

①本機横のFUNCキーを押す。
（表示画面に F が表示されます。）

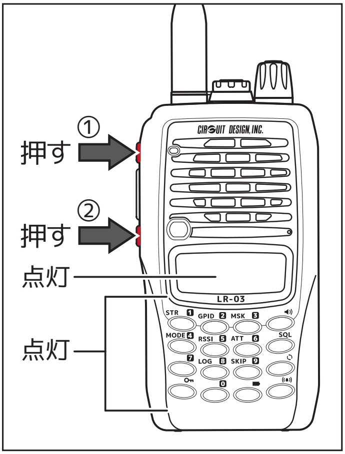
②MONIキーを押すと、LCDとキーパッドの照明が点灯します。

・無操作状態が5秒間継続すると、ランプは自動的に消灯します。

・点灯中にMONIキー以外の操作があれば、そこから5秒間点灯が延長されます。

・MONIキーを押しながら電源を入れると、ランプが常時点灯状態となります。
再度同じ操作を行うと、ランプは消灯します。

・常時点灯状態でFUNCキーを押してMONIキーを押すと、ランプを任意に点灯・消灯できます。



参 考:
ランプ機能を使うとバッテリーの消費が早くなります。

6.6 受信音切替機能

受信音の切り替えが出来ます。

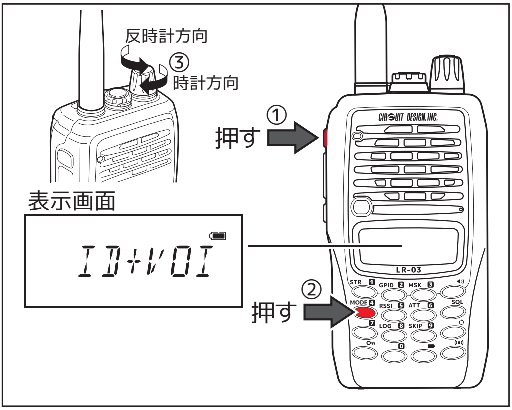
①本機横のFUNCキーを押します。（表示画面に F が表示されます。）

② MODE 4 キーを押します。受信音の設定画面が表示されます。

③ダイヤルを回して受信音を変更します。

ID+VOI：RF受信音 (初期状態)
ID　　：デジタルビープ音

④MONIキー以外のキーを押し設定を終了します。



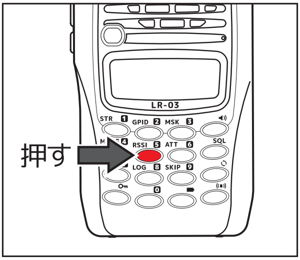
6

6.7 電波強度表示機能

特定の発信器の信号を受信し、その信号の強さで発信器までの距離と方向を相対的に推測して探索する機能です。その発信器の信号を強く受信するほど、デジタルビープ音が短い間隔で鳴ります(受信信号が弱いほど間隔が長くなります)。
発信器情報が含まれた受信信号と含まれない受信信号の時は、ともに電波の強さのレベルが画面に表示されます。

・ RSSI 5 キーを押します。

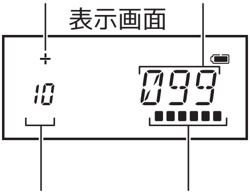
・機能の終了は、MONIキー以外のキーを押しますと通常表示に戻ります。



①発信器情報を受信した時に点滅

③電波の強さのレベル数値表示(生値)

表示画面

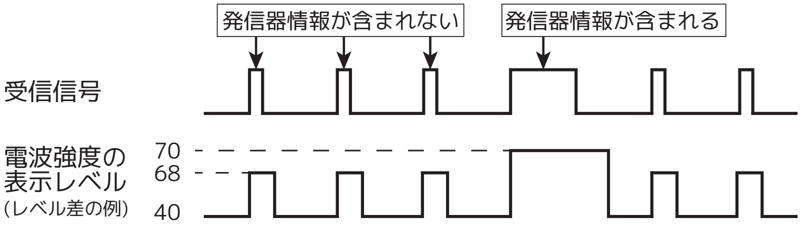


②発信器情報の受信回数(0～99)
※99の後は0に戻ります

④電波の強さのレベルインジケータ表示(0～6の7段階)

※発信器情報が含まれた受信信号のみを表示したい場合は、次ページ項目を参照してください。

発信器情報が含まれた受信信号と含まれない受信信号とで、電波の強さのレベル数値表示は、若干のレベル差が生じます。(下図例参照)



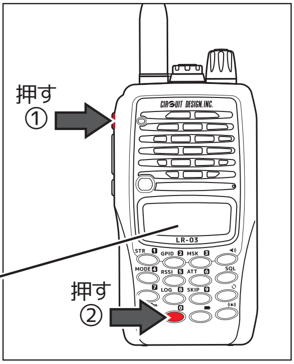
【発信器情報が含まれた受信信号のみを表示したい場合】

①本機横のFUNCキーを押します。

(表示画面に F が表示されます。)

② キーを押します。

③ダイヤルを回して、モードを選択します。
IDMASKの時は、発信器情報が含まれた受信信号のみを表示し、デジタルビープ音をスピーカから流します。



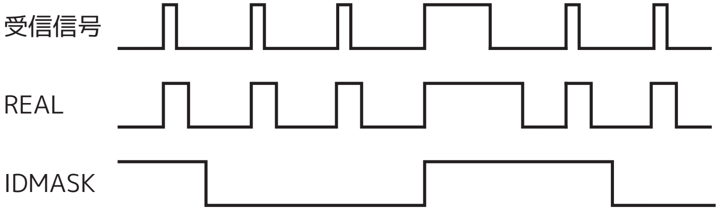
REAL ▸ IDMASK

③表示例

・REAL：標準モード
(ビーコン＋発信器情報ビーコン)
・IDMASK：IDMASKモード
(発信器情報ビーコンのみ)

④この時に電波強度表示をする場合は、RSSI 5 キーを押します。

受信信号に対して、REALとIDMASKのときでは、ディスプレイの表示画面の表示時間とデジタルビープ音の再生時間が異なります。(下図参照)



6.8 メモリーモード

発信器からの発信器情報を、メモリーチャンネル100個（00〜99CH）に保存することが出来ます。

6.8.1 受信した発信器情報を自動的にメモリーチャンネルへ登録

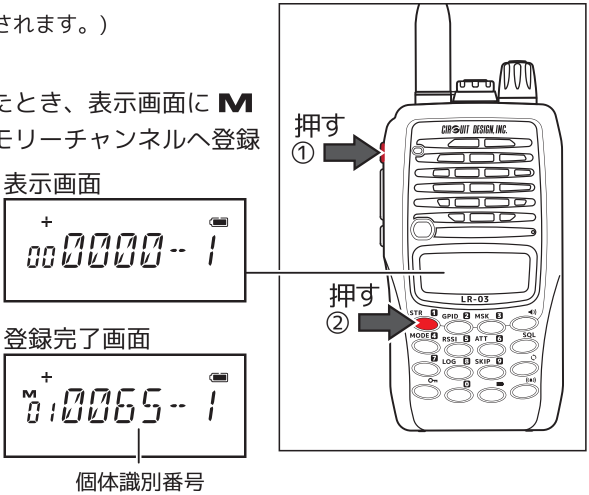
①本機横のFUNCキーを押します。

(表示画面に F が表示されます。)

② STR 1 キーを押します。

発信器情報を受信したとき、表示画面に M が点滅し、空きのメモリーチャンネルへ登録します。初期は、00から保存します。

③発信器情報の自動取得を解除する場合は、①〜②の操作を再度行います。



6.8.2 発信器情報を手動で入力しメモリーチャンネルへ登録

①本機横のFUNCキーを押します。

(表示画面に F が表示されます。)

② GPID 2 キーを押します。

③以下の順番で、発信器情報をメモリーチャンネルへ登録します。

入力方法は、キー入力およびダイヤル入力の２つの方法があります。

・メモリーチャンネル：00〜99

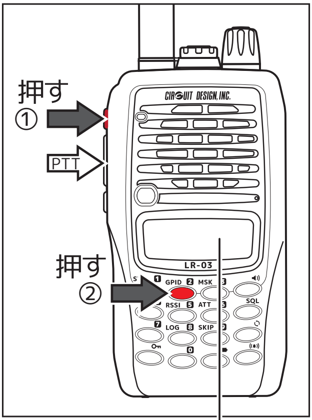
・動物の種類：０〜16 (ダイヤル入力時)

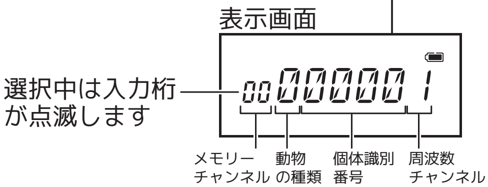
※キー入力時：０〜９までの入力範囲

※ダイヤル入力：10⇒A、15⇒F（16進数表示）

・個体識別番号：０〜4095

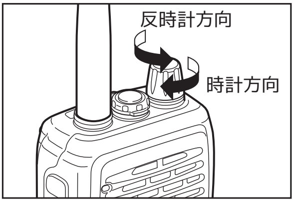
・周波数チャンネル：1〜5





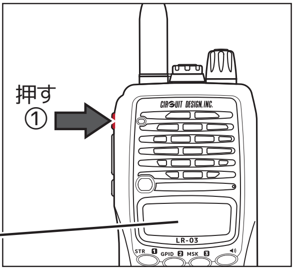
●キーで入力する場合
（例．メモリーチャンネル：10、動物の種類：1(サル)、
　　個体識別番号：0352、周波数チャンネル：３）
前ページの①②の操作の後に、キーで発信器情報の数字を押します。
「1」→「0」→「1」→「0」→「3」→「5」→「2」→「3」
最後まで数字を入力すると自動的に登録されます。
途中で入力をやめたいときは、FUNCキーを押します。

●ダイヤルで入力する場合
（例．メモリーチャンネル：10、動物の種類：1(サル)、
　　個体識別番号：0352、周波数チャンネル：３）
前ページの①②の操作の後に、ダイヤルで発信器情報の数字を入力します。
（数字選択後、必ずPTTキーを押して決定してください。）
ダイヤルで「1」→ PTTキー
→ ダイヤルで「0」→ PTTキー
ダイヤルで「1」→ PTTキー
ダイヤルで「0」→ PTTキー
→ ダイヤルで「3」→ PTTキー
→ ダイヤルで「5」→ PTTキー
→ ダイヤルで「2」→ PTTキー
ダイヤルで「3」→ PTTキー
途中で入力をやめたいときは、FUNCキーを押します。

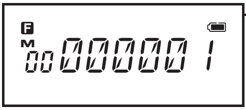


6.8.3 メモリーチャンネルに登録した発信器情報の確認

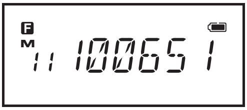
①本機横のFUNCキーを押します。
(表示画面に F が表示されます。)
②ダイヤルを回転させ、メモリーチャンネルに
登録した発信器情報の確認が出来ます。
③確認を終了するときは、約５秒間無操作のま
まにするか、何かキーを押してください。
このとき、キャッシュ
メモリー(一時記憶)に、
最後に表示した発信器
情報が記憶されます。



表示画面



表示例



・メモリーチャンネル：11
・動物の種類　　　　：1
・個体識別番号　　　：0065
・周波数チャンネル　：1

6.8.4 メモリーチャンネルの発信器情報の消去

①32ページの「6.8.2 発信器情報を手動で入力しメモリーチャンネルへ登録」を参照し、消去するメモリーチャンネル(例．11とする)に、「11000001」と上書きしてください。

②すべてのメモリーチャンネルのデータ(発信器情報)を消去する場合は、37ページの「7.1.1 メモリーチャンネルデータリセット」を参照してください。

6.9 マスク機能

目的の発信器情報のみを表示させる機能があります。

6.9.1 マスクモードとマスクする発信器情報を選択

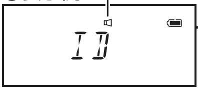
①FUNCキーを押します。
(表示画面に F が表示されます。)

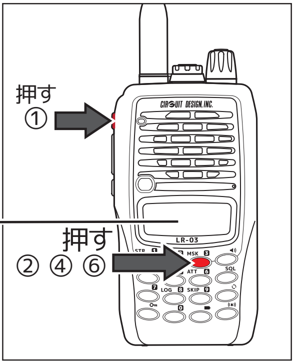
② MSK キーを押します。

③マスクするモードを選択します。ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

※GR,ID,GR+ID,ALL CHの時 (スピーカー表示) が点灯します

③表示例 点灯





OFF ‣ GR ‣ ID ‣ GR+ID ‣ ALL CH

・GR：動物の種類　　・ID ：個体識別番号
・ALL：すべての登録されたメモリーチャンネル

④ MSK キーを押し決定します。

⑤メモリーチャンネルより、発信器情報)を選択します。

※ALL CHの時は、⑤を飛ばして⑥を行います。

⑤表示例

⑥ MSK キーを押し決定します。

6.9.2 マスクモード変更またはメモリーチャンネル変更

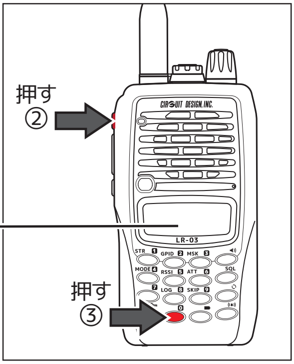
マスクモード変更： 本ページ「6.9.1 マスクモードとマスクする発信器情報を選択」で再度設定を行いますが、③でマスクモードを変更します。発信器情報の変更がない場合、④⑥を続けて行います。

メモリーチャンネル変更： 本ページ「6.9.1 マスクモードとマスクする発信器情報を選択」で再度設定を行いますが、⑤でメモリーチャンネルを変更します。

6.9.3 複数の発信器がある場合のマスク方法

複数の発信器がある場合、目的の発信器のみの探索を行いたい時に行うマスク方法です。探索は、電界強度表示機能(RSSIモード)にて行います。

> ⚠ 注意：完全にマスク出来ない場合もあります。また、発信器の送信パターンにより、発信器情報の送信間隔が短い場合は、正確に判別が出来ない場合があります。



①34ページ「6.9.1 マスクモードとマスクする発信器情報を選択」の①～⑥を設定します。

②FUNCキーを押します。

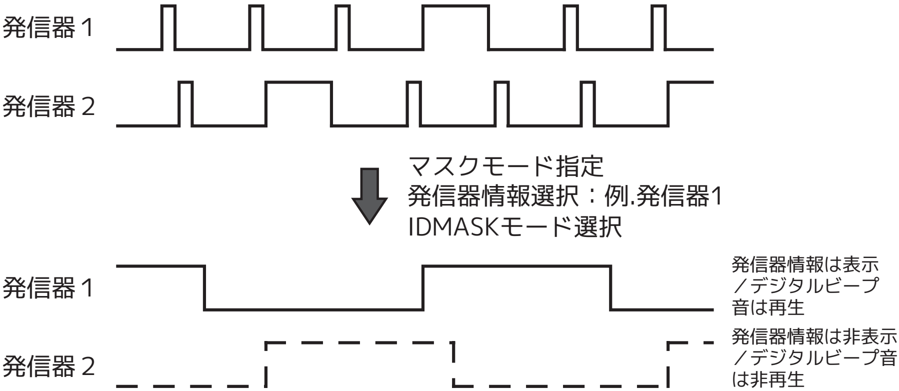
③ 0 キーを押します。

④モードを選択します。
ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

④表示例

・REAL：標準モード
・IDMASK：IDMASKモード

⑤ RSSI 5 キーを押します。



6.10 アラーム発信音

6.10.1 アラーム発信音1

緊急時にアラーム発信音を連続再生することが出来ます。

① キーを長押しすることにより、アラーム音を再生します。

※アラーム音は、ランダムのビープ音です。

※アラーム発信音の音量の変更設定については、26ページ「6.2ファンクション機能」を参照してください。

6.10.2 アラーム発信音2

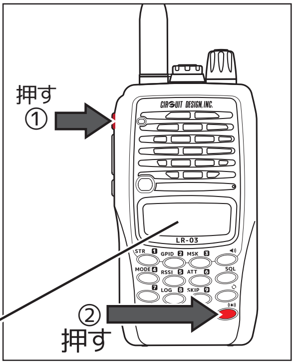
探索中に、アラーム発信音を間欠再生させることが出来ます。

①本機横のFUNCキーを押します。
（表示画面に F が表示されます。）

② キーを押します。

※アラーム音は、ランダムのビープ音です。

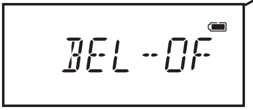
※アラーム発信音の発信時間間隔、休止時間間隔、音量の変更設定については、26ページ「6.2ファンクション機能」を参照してください。



③ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

BEL-OF → BEL-ON

表示画面



・BEL-OF：アラーム発信音の間欠再生を停止する（初期設定）

・BEL-ON：アラーム発信音を間欠再生する

④MONIキー以外のキーを押すと設定が終了します。

7.　リセット機能

7.1 リセット機能

本機にはメモリチャンネルデータ(発信器情報)の消去と、セットモードやディスプレイ表示などが初期化されるオールリセットの2種類があります。

7.1.1 メモリチャンネルデータリセット

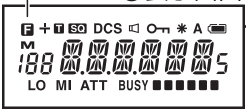
各種設定は保持し、メモリチャンネルデータ(発信器情報)の消去を行います。

①FUNCキーを押しながら電源を入れます。

②ディスプレイに全てのセグメントが表示されたら、キーを離します。2秒間ディスプレイから全てのセグメントが消えた後、再び表示されます。

全セグメント点灯

②表示画面



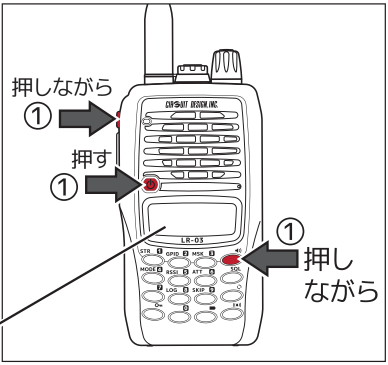
7.1.2 オールリセット

> ⚠ **注 意**
>
> オールリセットをすると、メモリチャンネルのデータがすべて消えます。メモリチャンネルのデータは必要に応じてにメモしておくことをおすすめします。

メモリチャンネルデータ(発信器情報)消去および各種設定が全て工場出荷時の初期値に戻ります。

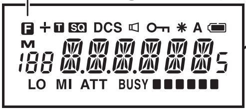
①FUNCキーと キーを同時に押しながら電源を入れます。

②ディスプレイに全てのセグメントが表示されたら、キーを離します。2秒間ディスプレイから全てのセグメントが消えた後、再び初期画面の表示がされます。



全セグメント点灯

②表示画面



8. 保守・参考

8.1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障ではありませんので、よくお確かめになってください。処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。設定プログラム・CPU関連の問題は、リセットをすることで回復する場合が多いです。

症　状	原　因	処　置
電源を入れても、ディスプレイには何も表示されない。	バッテリパックが接触不良をおこしている。	バッテリパックの端子の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電をおこなう。 乾電池ケースの電池を交換する。
	電源スイッチを離すのが早すぎる。	電源スイッチを少し長めに押す。
スピーカから音が出ない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。(☞P22)
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なレベルに設定する。(☞P23)
表示が異常になっている。	CPU が誤作動している。	外部電源およびバッテリパックを外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える値に設定する。
周波数チャンネルが切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。(☞P29)
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。(☞P29)
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をおこなう。 乾電池ケースの電池を交換する。

・本体内部の防水シールド、DC電源ジャックやイヤホンマイクのキャップなどの防水パーツは消耗品で、傷んでくると水に対する保護の性能は低下します。弊社の保証するJIS保護等7種防浸形相当の性能の保証期間は製品保証と同じ1年間です。JIS保護等7種防浸形は雨や雪、しぶきに対する機構的な保護の規格であって、水没や水中での使用などを保証するものではありません。イヤホンやDCジャックのゴムがしっかり閉まっていなかったために内部に浸水した場合は、保証期間内であっても有償修理になりますので、ご注意ください。専用ソフトケースESC-41(別売)をお使いいただくと、一層効果的に汚れや水分から無線機を保護することができます。

■ クリーニングの方法

・ケースやアンテナ等の機構部品
パソコンやビデオ、デジタルカメラ等デリケートな家電製品やメガネを清掃するために発売されているクリーナやブラシ、クロス等が無線機にも使えます。マイク穴やゴムのシールド等にはホコリがたまりやすいので、念入りに汚れを取り除いてください。

・電池や充電器の端子
目に見えない油膜などで汚れ、性能を低下させることがあります。新しい乾いた綿棒で電池や充電器が接触する端子を時々ていねいにぬぐって汚れを落としてください。

8

8.2 オプション(別売)一覧 ※オプションの部品番号はアルインコ株式会社の番号です。

■ 専用オプション(スペア用を含む)

・リチウムイオンバッテリパック(7.4V 1100mA) EBP-63
・リチウムイオンバッテリパック(7.4V 1600mA) EBP-64
・スタンド型急速充電器セット EDC-144A
・乾電池ケース(防水では有りません) EDH-34
・MIC/SP プラグ変換ケーブル EDS-14
・ソフトケース ESC-41
・アンテナ EA-70

■ 汎用オプション

・12V車用シガープラグ(フィルタ付) EDC-36
・ストレートコードイヤホン* EME-6
・カールコードイヤホン* EME-26

⚠ 注 意

・* マークのついたオプション品を使用するには、EDS-14ケーブルを購入してください。
・リチウムイオン/ニッケル水素バッテリーパック以外のオプション品はすべて防水加工されていません。防水プラグの付いたマイク類でも、マイクユニット部分は防水ではありません。防水機能のないオプション品を、湿気の多い環境で使用しないでください。

参 考:
・ベルトクリップ、ストラップ、アンテナもスペア部品としてお求め頂けます。販売店にご相談ください。
・EBP-63、64は、本体に正しい方法で接続された場合にのみIPX7等級の防水機能が働きます。

ここからは、別売オプション・アクセサリの使用方法を説明します。
オプションには説明書を添えていませんので、将来オプションを
お使いになる時のためにも本書を必ず保管してください。

8

8.2.1 MIC/SP(マイク／スピーカ)プラグ変換ケーブル(EDS-14(別売))

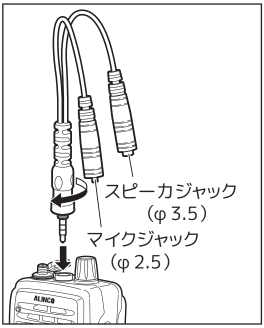
①アンテナを外します。

②本機の電源を切ります。

③プラグを時計方向(右)に回します。
回転が止まったら、プラグを確実に取り付けたことを確認します。

④MIC/SPケーブルをそれぞれのジャックに接続します。

⑤アンテナを接続します。



⚠ 注 意

･本機を上下逆さまに持ち、ケーブルを下にぶら下げた状態でプラグを取り付けるとケーブルが絡まりにくいのですが、手を滑らせて本機を落とす危険があります。落下による故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。
･プラグを無理に締めつけるとプラグの故障の原因になります。ペンチのような工具を使って締めたり緩めたりすることは絶対におやめください。

8.2.2 バッテリパック

バッテリパックは出荷時には充分に充電されておりません。
お買い上げ後にフル充電してからご使用ください。

■ LR-03に使用可能なバッテリパック

EBP-63　リチウムイオンバッテリパック (DC 7.4V 1100mAh)
EBP-64　リチウムイオンバッテリパック (DC 7.4V 1600mAh)

■ バッテリパックの充電時間

バッテリパックの充電時間については、下図を参照してください。
(約ー時間)は、空のバッテリパックをフル充電するのに必要な時間を示します。

バッテリパック ＼ 充電器	リチウムイオンバッテリパック	
	EBP-63	EBP-64
EDC-144 スタンド型急速充電器セット	○ (約2時間)	○ (約3時間)

8.2.3 充電器の使用方法

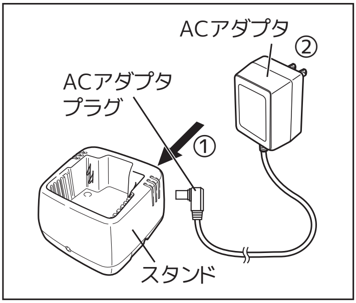
⚠ 注 意

◎お使いの充電器の品番をお確かめください。
・初めてお使いになる前に、ショート防止のために付属の絶縁シートでスタンド底面のネジ取り付け口を覆ってください。
・本書の「警告」(☞6ページ)と、付属品の取扱説明書の安全上の注意をご使用の前にお読みください。

以下の製品が付属品の中に入っていることを確認してください。
・EDC-144A　:　EDC-144スタンド、EDC-150アダプタ(AC120V)、絶縁シート

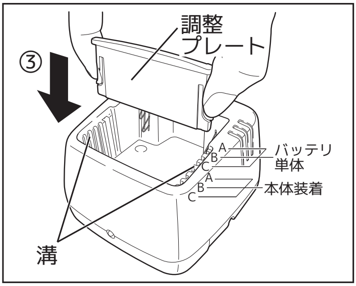
■ EDC-144Aによる充電方法

①ACアダプタプラグを、スタンド背面のDC-INジャックに接続します。

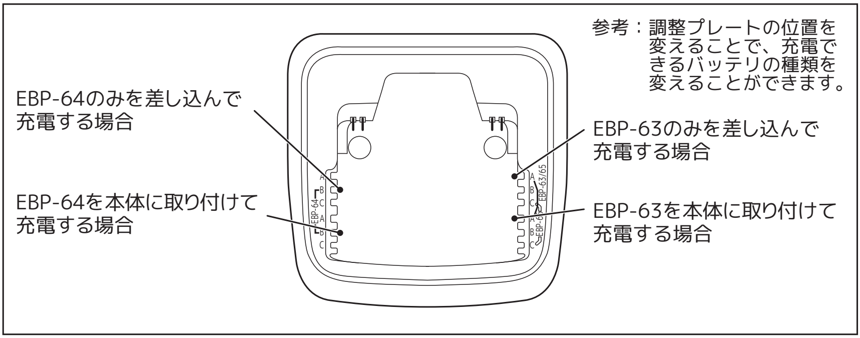


②アダプタをコンセントに接続します。

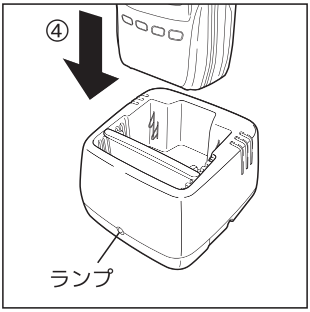
③調整プレートの両端を指で押さえたまま、バッテリパックの大きさに合うスタンドの溝に調整プレートを取り付けます(左右の文字(A、B、C)が一致するように調整プレートを取り付けます)。プレートはスタンドの底までしっかりと押しこみます。



調整プレートの取り付け位置



④図のようにスタンドにバッテリパックを取り付けます。充電中は電源を切ります。
(図は、バッテリパックを本体に取り付けたまま充電する場合のものです。本体から取り外してバッテリパックのみをスタンドに入れることもできます。)
スタンドのランプが赤色に点灯し、充電が始まります。



⑤充電が完了すると、ランプが消灯します。
スタンドからバッテリパックを取り外します。

⚠ 注 意

充電が適切におこなわれていないとき、ランプは赤色に点滅します。すぐに充電を中止し、コンセントからコードを抜いてください。その後、お買い上げいただいた販売店または弊社窓口にお問い合わせください。

EDC-144の仕様

	EBP-63	EBP-64
入力電圧	DC 12.0V 700mA	
使用温度範囲	0°C〜+40° C (+32° F〜+104° F)	
充電電流	600mA	
バッテリー容量	DC 7.4V 1100mAh	DC7.4V 1600mAh
充電時間	約2時間	約3時間

8.3 アフターサービスについて

8

■ 保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはそれを証明するレシート等の書類が無い場合の保証は無効となりますので十分ご注意ください。

■ 保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって無償で修理いたします。

■ 保証期間が経過した場合

お買い上げいただいた販売店または弊社窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社窓口へご相談ください。

■ 製造終了製品に対する保守年限に関して

製造終了製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。
しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。
※補修用部品の保証期間は、製造終了後5年です。

■ オプションパーツ

本機は、アルインコ株式会社との共同開発です。オプションパーツは、一部パーツを除きアルインコ株式会社製トランシーバDJ-S57等のオプションパーツをそのままお使いいただけます。お買い上げいただいた販売店または弊社窓口へご相談ください。

9. 定格

■ 一般定格

受信周波数		CH-1：142.94MHz　CH-2：142.95MHz CH-3：142.96MHz　CH-4：142.97MHz CH-5：142.98MHz
メモリチャンネル		100チャンネル（00〜99チャンネル）
アンテナインピーダンス		50Ω(不平衡)
周波数安定度		±2.5ppm
電源電圧		DC7.0〜16.0V (EXT DC-IN)
消費電流 DC13.8V	受信時(500mW)	約250mA / 約250mA
	待受け時	約70mA / 約80mA
使用温度範囲	外部DC	-10℃〜+60℃
	バッテリパック	-10℃〜+45℃
接地方式		マイナス接地
寸法		W58×H110×D34.1 mm (バッテリパックEBP-63装着時)
重量		約270g(アンテナ、バッテリパックEBP-63装着時)
付属品		アンテナ(SMAコネクタ)、リチウムイオンバッテリパック(EBP-63)、充電スタンド(EDC-144)、充電ACアダプタ(EDC-150)、ハンドストラップ、ベルトクリップ、絶縁シート、取扱説明書、ファーストステップガイド(本書)

9

■ 受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度 (VHF)	-14dBu以下 / -12dBu以下
中間周波数	38.85MHz(1st) / 450kHz (2nd)
選択度	(-6dB)12kHz以上 / (-60dB) 35kHz以下
低周波出力	500mW(MAX)400mW以上(8Ω、10%歪み)

保証書

本製品は厳重な品質管理のもとに、所定の検査の上出荷しております。
取扱説明書に記載された通りの通常の取り扱いにおいて、下記期間中に故障が発生した場合には、裏面の規定により無償にて修理させていただきます。

<table>
<tr><td colspan="3">製品名　　：　アニマルトラッキングレシーバ
150MHz帯 動物発信器専用受信機
ＬＲ－０３

シリアルＮｏ．：</td></tr>
<tr><td colspan="3">保障期間　：　お買い上げの日より１年間</td></tr>
<tr><td>お買い上げ日</td><td colspan="2">年　　月　　日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">販売店名</td><td colspan="2">〒</td></tr>
<tr><td colspan="2">電話　　（　　　）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">お客様</td><td>フリガナ
お名前</td><td>お電話
（　　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">〒</td></tr>
</table>

株式会社サーキットデザイン
〒399-8303 長野県安曇野市穂高7557-1
Tel: (0263)-82-1024　FAX:0263-82-1016
E-mail: animal@tracking21.jp
URL: http://www.tracking21.jp/